

令和 8 年度 横浜市 英語教育改善プラン

目標

「英語を活用しながら、あらゆる人々の多様性を尊重し、協働、共生できる人」の育成

☐ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☒ その他
(パフォーマンステスト含む) (専科教員含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①全授業時数に対するAET (ALT) が参画する授業の割合の増加

R6:77.5% ⇒ R7:84.3%
「AET活用報告書」(横浜市)より

②言語活動を通じた授業の充実

目的・場面・状況を適切に設定した言語活動を中心とした授業が多く見られた。

①英語で進んでコミュニケーションを図りたいと思う児童の割合の低下

小6 78.2
(R6 : 80.0%)
「横浜市学力・学習状況調査、生活・学習意識調査より」

②研修のさらなる充実

多様な教員のニーズに応えられる研修が求められている。

2. 要因分析

①AETを40人増員し、常駐校を80校増やしたことで、AETが参画できる授業数が大幅に増加した。

②教員の言語活動への意識の高まりとチーム・ティーチング (TT) の推進による授業改善が進んだことが要因として挙げられる。また、TT訪問研修など、研修機会の充実により、言語活動を中心とした授業の充実を図ることができた。

①児童が、「自分の英語が伝わった喜び」や「相手の英語が分かった嬉しさ」より実感できるよう、さらなる授業改善が必要。

②チーム学年経営の取組が進み、英語専科が増えてきている。専科教員にとって必要な内容や個々の教員の経験に応じた研修の実施やその仕組みを整えていく必要がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

○ともに未来を創るグローバル人材の育成

【拡充】

- ・AETの増員（大規模校における複数配置 6校）
- ・オンラインAETの対象を全校に拡大

【継続】

- ・小学校1年生からの外国語活動の実施
- ・AETの全校配置
- ・専科教員配置の拡充(国からの加配に加え、本市が独自で行っているチーム学年経営を活用した専科教員の創出を推進)
- ・「生きた英語」に触れる機会の提供（英語村等）
- ・モデル校における英語イマージョン教育の実施
- ・フィールドワーク型国際交流事業（YEQ）の高学年での実施

参考URL：(<https://www.city.yokohama.lg.jp/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/global/>)

○豊かなインプットと個に応じたアウトプットを大切にした授業の推進

- ・small talkを推進し、目的・場面・状況等を踏まえた質の高いインプットを児童に十分行うことで、児童の自然な言語習得を目指す。
- ・児童が学習の見通しをもち、自身の学びを調整し、自立した学習者となるために、引き続き研修を行うと同時に、好事例を発信する。
- ・子どもたちの「英語で伝えたい」という気持ちを大切にした言語活動中心の授業の実施。

令和 8 年度 横浜市 英語教育改善プラン

「英語を活用しながら、あらゆる人々の多様性を尊重し、協働、共生できる人」の育成

目標

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R7：71.6％⇒R8：75％）

□ 言語活動 □ 指導と評価の一体化 □ 教師の英語力・指導力 □ 校種間連携 □ ALTの参画 □ ICTの活用 □ AIの活用 □ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒数の増加

R6:65.4％ ⇒ R7:71.6％

②授業における言語活動の充実

目的・場面・状況を適切に設定した言語活動を中心とした授業が多く見られた。

③教師の英語力の向上

C1以上 22.4％ (11.2％)

B2以上 78.9％ (58.6％)

() 内は全国平均

①英語で進んでコミュニケーションを図りたいと思う児童の割合の低下

中 3 : 79.6％

(R6 : 80.6％)

「横浜市学力・学習状況調査、生活・学習意識調査より」

②チーム・ティーチングが十分浸透していない点

AETとの授業において、JTEの授業への参画が十分ではない。

未だ改善が必要な点

2. 要因分析

①②「横浜ラウンド制」を活用しての授業改善や学んだ英語を活用する機会および体験機会の創設が生徒の英語力の向上や言語活動の充実に繋がっていると考えられる。

②③研修の実施により、教員の言語活動への意識の高まりとともに、教師の高い英語力に支えられ、言語活動中心とした授業改善が進んだ。

①生徒が、「自分の英語が伝わった喜び」や「相手の英語が分かった嬉しさ」をより実感できるよう、さらなる授業改善が必要。

①②AETが参画する授業時数をより増やしていくとともに、チーム・ティーチングの質の向上を図っていく必要がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

○ともに未来を創るグローバル人材の育成

【新規】

- ・AIドリルの全校導入
- ・オンラインAET事業の開始
- ・イングリッシュインターン※の開始

※英語を使って仕事をしている方と生徒が英語でやり取りをし、英語を学んだ先のキャリアについて考える機会とするもの。

【継続】

- ・英語を活用する機会の推進（SEPro※、English Festival等）
 - ※Super English Programの略。一つの学校に区内のALT 6 人が集まり、1 クラス 6 人体制でコミュニケーションを中心とした授業を行う。
 - ・AETの全校配置
 - ・外部指標（実用英語技能検定）の実施による生徒自身による学習改善と教員の指導改善
 - ・フィールドワーク型国際交流事業（Yokohama English Quest）
 - ・市内留学体験事業（はまっこ留学体験）
 - ・国際スポーツ大会、会議等における英語を活用したボランティア
- 参考URL : (<https://www.city.yokohama.lg.jp/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/global/>)

○豊かなインプットと個に応じたアウトプットを大切にした授業の推進

- ・相手から求められていることを理解し、即興で自分の気持ちや考えを述べるができるよう、既習事項を繰り返しながらスモールステップを踏む授業展開の推進
- ・子どもたちの「英語で伝えたい」という気持ちを大切に言語活動中心の授業の実施。

令和 8 年度 横浜市 英語教育改善プラン

「英語を活用しながら、多様性を尊重し、国際社会で協働・共生できる人材の育成」

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R7 : A2以上 87.1%、B1以上 68.4% ⇒ R8 : A2以上 98%、B1以上 56%)

目標

言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①生徒の英語力の上昇
(グローバルに活躍することが期待される層 (CEFR B1レベル相当以上) の拡充)
(R6:67%⇒R7:68%)
- ②CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する教員割合の増加
(R6:70%⇒R7:86%)

- ①英語担当教員の授業における英語使用状況の増加したが、特に普通科の学校で低くなっている点
(R6:38%⇒R7:40%)
- ②CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合の減少
(R6:89%⇒R7:87%)

2. 要因分析

- ①外部試験受験を通じて生徒自身が英語力の現状や課題を具体的に認識する機会を得たことで、学習意欲が高まったと考えられる。また、英語活用機会の充実も、学習意欲向上につながったと考えられる。
- ②授業改善につなげるために、外部試験の受験等により、教員が客観的に自分の英語力を把握したことが一因と考えられる。
- ①授業において、文法知識の定着に重点が置かれすぎており、英語による説明や発問、課題提示など、生徒が理解できる英語を用いた指導の工夫が十分に図られていないことが一因と考えられる。
- ②A2レベル相当以上の英語力を取得している生徒は増加しているが、A2レベル相当の英語力を有すると思われる生徒数は減少しており、評価等に偏りがあったこと要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②生徒が言語活動に取り組める授業実現
 - ・AETの全校 (複数) 配置
 - ・外部指標 (実用英語技能検定の実施) による生徒自身の学習改善と教員の指導改善
 - ・評価と指導の一体化による更なる授業改善
 - ・ICT機器 (生成AI等含む) 活用による生徒の学習活動の工夫
- ①②身に付けた英語を活用する機会の推進
 - ・English Day Camp、Practical English (横浜市大との連携)、国際スポーツ大会、会議での英語ボランティア活動
 - ・姉妹都市交流等国际交流の推進
 - ・国際局と連携した国際交流機会の提供 (姉妹都市周年行事など)
 - ・海外大学進学支援プログラム・横浜SGHの取組
(参考URL : <https://www.city.yokohama.lg.jp/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/global/>)
- ②生徒の英語力向上を引き続き促進するため、教員の英語力向上を支援し、指導力強化を図る
 - ・外部試験の受験推奨
 - ・英語力向上のための研修の周知徹底・受講奨励
 - ・主体的・対話的で深い学びの充実のための授業実践
- ①言語活動に関する研修及び好事例の発信
 - ・教員の理解を深めるため、教育課程研究委員会の活動を通じた研究授業の実施
 - ・各校の工夫を共有するため、外国語部会のクラスルームに保存し、指導力向上に活用

横浜市教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		98	93.9	98	88.8	98	87.1	98		98	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		52	55.7	56	66.9	56	68.4	56		56	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		90	75.6	90	77.5	90		90		90	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		45	51.2	52	50	52		52		52	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	62.5	100		100		100		100	
		公表（％）	100	50	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	25	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		85	92.6	90	70.1	90	85.9	90		90	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		90	41.5	90	37.5	90	40	90		90	

	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		68	67.2	68	65.4	69	71.6	75		76	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		90	74	80		80		83		85	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		80	61	80		80		83		85	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	75.3	80		90		90		100	
		公表（％）	80	51.4	60		70		75		80	
		達成状況の把握（％）	80	54.8	60		65		70		80	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		60	58.3	60	60.1	60	78.9	60		60	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		70	66.4	70		72		75		80	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	80	46.6	60		70		75		80	
		公表（％）	55	20.3	50		60		62		65	
		達成状況の把握（％）	60	37.9	50		60		62		65	